

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第95期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 群栄化学工業株式会社

【英訳名】 Gun Ei Chemical Industry Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 有田 喜一

【本店の所在の場所】 群馬県高崎市宿大類町700番地

【電話番号】 027 - 353 - 1818 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役副社長 有田 喜一郎

【最寄りの連絡場所】 同上

【電話番号】 027 - 353 - 1810

【事務連絡者氏名】 同上

【縦覧に供する場所】 群栄化学工業株式会社東京支店  
(東京都中央区京橋1丁目14番4号)

群栄化学工業株式会社大阪支店  
(大阪市北区芝田2丁目2番17号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第94期 第3四半期 連結累計期間		第95期 第3四半期 連結累計期間		第94期	
		自 至	平成22年4月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(百万円)		17,028		18,347		22,635
経常利益	(百万円)		904		948		1,378
四半期(当期)純利益	(百万円)		649		784		1,062
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		685		479		1,054
純資産額	(百万円)		33,744		34,096		34,111
総資産額	(百万円)		44,168		42,082		43,094
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		9.04		10.93		14.79
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		74.6		79.3		77.3

回次		第94期 第3四半期 連結会計期間		第95期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成22年10月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		1.69		2.45

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第94期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響を受けたサプライチェーンの復旧により、企業の生産活動は持ち直しが見られたものの、歴史的な円高や欧米の財政不安、タイ王国の洪水被害による企業の生産活動の鈍化等もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、事業環境の変化に対応した積極的な営業活動を行うとともに、収益改善に努めた結果、売上高は18,347百万円（前年同期比7.8%の増加）となりました。

利益面では、前年度から引き続き生産効率の向上に取り組みコスト削減に努めてまいりました結果、営業利益は821百万円（前年同期比5.7%の増加）、経常利益は948百万円（前年同期比4.8%の増加）、四半期純利益は784百万円（前年同期比20.8%の増加）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### [ 化学品事業 ]

電子材料向け樹脂が累計期間後半にユーザーでの在庫調整の影響を受け低調に推移し、また、自動車関連向け樹脂が累計期間後半にタイ王国の洪水被害によるサプライチェーンへの影響を受け若干の減少となりましたが、建設機械向け樹脂が好調に推移いたしました。なお、在外子会社がタイ王国において発生している洪水被害の影響を受け、累計期間後半より低調に推移しておりますが、提出会社と決算期が異なるため、当連結累計期間に与える影響はありません。その結果、売上高は13,479百万円と、前年同四半期と比べ1,183百万円（9.6%）の増収となりました。利益面では、コスト削減に努めてまいりました結果、セグメント利益（営業利益）は736百万円と前年同四半期と比べ51百万円（7.5%）の増益となりました。

#### [ 食品事業 ]

食品事業においては、新商品の増収が、東日本大震災の顧客への影響による売上高の落ち込みをカバーし、堅調に推移した結果、売上高は4,679百万円と、前年同四半期と比べ138百万円（3.1%）の増収となりました。利益面では、コスト削減に努めてまいりましたが、原料価格の高騰により、セグメント損失（営業損失）は37百万円（前年同四半期24百万円のセグメント損失（営業損失））となりました。

#### [ 不動産活用業 ]

不動産活用業においては、前年並みに推移した結果、売上高は187百万円と前年同四半期と比べ2百万円（1.6%）の減収、セグメント利益（営業利益）は122百万円と前年同四半期と比べ5百万円（4.8%）の増益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べ1,012百万円減少し、42,082百万円となりました。これは、売上高の増加により売上債権が増加したものの、有価証券の償還及び有形固定資産の減価償却により減少したためであります。

負債合計は前連結会計年度末と比べ997百万円減少し、7,985百万円となりました。これは、借入金の返済により減少したためであります。

純資産合計は前連結会計年度末と比べ15百万円減少し、34,096百万円となりました。これは、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したものの、有価証券の時価下落による評価差額金の減少及び配当金の支払いによる減少と、円高により為替換算調整勘定のマイナス幅が拡大したためであります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は724百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	176,211,000
計	176,211,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	89,983,085	89,983,085	東京証券取引所 (市場第一部)	単位株式数は 1,000株であります。
計	89,983,085	89,983,085		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年12月31日		89,983		5,000		7,927

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年9月30日の株主名簿により記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 18,085,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 71,258,000	71,258	
単元未満株式	普通株式 640,085		
発行済株式総数	89,983,085		
総株主の議決権		71,258	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権5個)含まれております。  
 2 「単元未満株式」欄には自己保有株式423株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 群栄化学工業株式会社	高崎市宿大類町700	18,085,000		18,085,000	20.1
計		18,085,000		18,085,000	20.1

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、赤坂有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,624	3,317
受取手形及び売掛金	6,412	7,399
有価証券	701	1,606
商品及び製品	1,625	1,997
仕掛品	21	20
原材料及び貯蔵品	758	859
その他	348	427
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	13,491	15,628
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,986	19,979
減価償却累計額及び減損損失累計額	12,814	13,142
建物及び構築物（純額）	7,172	6,837
機械装置及び運搬具	25,153	25,126
減価償却累計額及び減損損失累計額	20,630	21,371
機械装置及び運搬具（純額）	4,522	3,754
土地	7,639	7,651
リース資産	35	42
減価償却累計額	14	20
リース資産（純額）	21	22
建設仮勘定	191	83
その他	2,413	2,412
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,118	2,149
その他（純額）	294	263
有形固定資産合計	19,842	18,612
無形固定資産		
	186	124
投資その他の資産		
投資有価証券	9,021	7,192
その他	639	610
貸倒引当金	86	86
投資その他の資産合計	9,574	7,716
固定資産合計	29,603	26,454
資産合計	43,094	42,082

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,093	3,313
1年内返済予定の長期借入金	1,252	1,252
未払金	893	620
未払法人税等	67	33
賞与引当金	193	121
その他	56	223
流動負債合計	5,557	5,565
固定負債		
長期借入金	1,769	898
退職給付引当金	1,000	994
環境対策引当金	16	16
負ののれん	25	8
その他	612	501
固定負債合計	3,425	2,420
負債合計	8,983	7,985
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	25,689	25,689
利益剰余金	7,394	7,747
自己株式	4,709	4,712
株主資本合計	33,374	33,725
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	219	20
為替換算調整勘定	289	396
その他の包括利益累計額合計	69	375
少数株主持分	807	746
純資産合計	34,111	34,096
負債純資産合計	43,094	42,082

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	17,028	18,347
売上原価	14,058	15,307
売上総利益	2,969	3,039
販売費及び一般管理費	2,192	2,218
営業利益	777	821
営業外収益		
受取利息	94	90
受取配当金	29	33
持分法による投資利益	5	7
負ののれん償却額	19	16
その他	34	55
営業外収益合計	183	203
営業外費用		
支払利息	34	21
租税公課	14	0
為替差損	2	8
支払手数料	-	41
その他	4	4
営業外費用合計	56	76
経常利益	904	948
特別利益		
固定資産売却益	-	0
貸倒引当金戻入額	0	-
保険解約返戻金	-	3
特別利益合計	0	4
特別損失		
固定資産処分損	33	15
投資有価証券評価損	65	41
会員権評価損	2	-
特別損失合計	100	56
税金等調整前四半期純利益	804	895
法人税、住民税及び事業税	62	51
法人税等調整額	24	9
法人税等合計	87	41
少数株主損益調整前四半期純利益	717	853
少数株主利益	67	68
四半期純利益	649	784

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	717	853
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25	196
為替換算調整勘定	3	174
持分法適用会社に対する持分相当額	9	3
その他の包括利益合計	31	374
四半期包括利益	685	479
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	616	479
少数株主に係る四半期包括利益	69	0

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年12月31日)
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。  
 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形	-	156百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年12月31日)
減価償却費	1,470百万円	1,558百万円
負ののれんの償却額	19 "	16 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	215	3	平成22年3月31日	平成22年6月28日	資本剰余金 (注)
平成22年10月28日 取締役会	普通株式	215	3	平成22年9月30日	平成22年12月8日	利益剰余金

(注) 純資産減少割合は0.007であります。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	215	3	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年10月14日 取締役会	普通株式	215	3	平成23年9月30日	平成23年12月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計 (注)
	化学品	食品	不動産活用	
売上高				
外部顧客への売上高	12,296	4,540	190	17,028
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	12,296	4,540	190	17,028
セグメント利益又は損失( )	684	24	117	777

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計 (注)
	化学品	食品	不動産活用	
売上高				
外部顧客への売上高	13,479	4,679	187	18,347
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	13,479	4,679	187	18,347
セグメント利益又は損失( )	736	37	122	821

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	9円04銭	10円93銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	649	784
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	649	784
普通株式の期中平均株式数(千株)	71,825	71,811

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第95期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)中間配当については、平成23年10月14日開催の取締役会において、平成23年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 215百万円  
 1株当たりの金額 3円  
 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成23年12月8日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月9日

群栄化学工業株式会社  
取締役会 御中

赤坂有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 勉 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 荒川 和也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている群栄化学工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、群栄化学工業株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。